

「二位不動は談合の状況証拠。監視強化を」と市長に要求 市長は「受注意欲の表れ、企業努力」と評価



9月議会の一般質問で私は入札・契約制度の改革、第三セクター問題、総合事務所の見直し問題などをとりあげ、市長に質問しました。

一位不動は国交省もオンブズマンも問題にしている

入札・契約制度の改革に関しては、これまでの上越市の入札・契約制度改善の取り組みを一定評価した上で、昨年度の入札の中で複数回に及んだ116件のうち93件が「二位不動」であったことを明らかにして、監視を強め、改善を図るよう求めました。

しかし村山市長は、「入札参加企業が、入札額の積算に当たり、今まで以上にしつかりと取り組んでいる」「（一位不動が多く出たのは）落札した企業の強い受注意欲の表れであり、企業努力によるもの」と答え、再質問でも強気の答弁を繰り返しました。一位不動は、入札が何回行われても、2位以下は動くが最低価格札を入れた業者は変わらないという事態をいいます。全国オンブズマンが「一位不動は談合の状況証拠」とし、国交省などでも問題視し、監視を強めている中で、今回の市長答弁は理解できません。

市所有施設に約2億円の第三セクター所有の固定資産

第三セクター問題では、市所有施設

の一部に第三セクター所有の固定資産があることを示し、早期に買い戻しの措置を取るよう求めました。

市長は、「第三セクター11社の直近の決算書によると、第三セクターが所有する建物附属設備や備品などの有形固定資産の帳簿価額は、総額で約2億円」「過去において、緊急性を要する施設修繕について第三セクターが経費を立て替えて実施したことや、会社独自の判断で購入したことなど様々な理由から、第三セクターが固定資産を実際に所有している状況が生じている」「市としては、各第三セクターが資産を購入した経緯や市との事前協議の有無、また、指定管理業務において真に必要な資産か否か等について確認を行ったうえで、買戻しや寄附採納など、市として必要な対応を行ってまいりたい」と答えました。この買戻し等は株式評価までに行うことになる見込みです。第三セクターと丁寧な協議を行っていただきたいものです。

「サービスの質の向上」市は現段階で明言できず

総合事務所の在り方の見直し問題では、地域自治区の在り方への影響、産業建設グループの集約と災害時などでの分散、市役所組織再編の全体像などについて質問しました。

このうち、地域自治区の在り方への影響について市長は、「集約化を行う

グループにおいて、各地域の個性や特性をいかした広域的な地域振興策の充実に努めていくこととしており、それにより各地域自治区の活性化も図られる」「この度の取組は、地域自治区の在り方に、何ら影響するものではなく、むしろ地域全体の底上げを図る意義を有している」と強弁しました。



【シロバナサクラタデ】タデ科の多年草。桜の花とそっくり。数少なくなりました。

これまで、見直しによって行政エリアの変更や総合事務所の統廃合はないと繰り返し述べてきた行政側ですが、私から、産業建設グループの集約自体が、部分的ではあっても事実上の行政エリア再編となることを指摘しました。いずれは総合事務所も統合するのはないかと市民が心配するのは当然のことです。

また、今回の見直しで行政側が期待している効果として、「サービスの質の向上」と「職員資質の向上と組織的対応力の強化」をあげていますが、「サービスの質が向上することになる事務事業は218事務事業のうち何件か」との質問に、総務管理部長は「今後、整理の基準を示しながら、分類をし、議会などに改めて示していきたい」と答えました。サービスが向上するかどうか、現段階で示せないというのは問題ですね。

見直し問題は、これからもしっかりと議論していきたいと思えます。

	総件数	入札(1回)	再入札(2回)	再入札(3回)	不調・中止
工事件数(A)	592	476	47	28	41
1位不動(B)			45	25	23
(B÷A)			95.74%	89.29%	56.10%

	総件数	入札(1回)	再入札(2回)	再入札(3回)	不調・中止
工事件数(A)	644	637	3	1	3
1位不動(B)			3	1	0
(B÷A)			100.00%	100.00%	0.00%

コーヒーを飲んでは笑い、思い出話をしては笑う。八〇代後半の母と娘がたまに一緒にいると、まあ何と言うか、うれしさいっぱいになるんですね。稲刈りが終わったころを見計らって妻の実家へ遊びに出掛けたとき、そう思いました。

柏崎市にある妻の実家へ着いたのは日曜日の夕方、四時過ぎでした。義兄が、「おふくろは裏庭にいるよ」と言うので、家の後ろへ回ると、義母は雑草を取っている最中でした。四角いボックスに腰をかけ、丸い蚊取り線香を腰に下げて仕事をしている姿は若々しく、とても八八歳には見えませんでした。

私たちの姿を見た義母は、草を取るのをやめ、「さあさ、家に入って、入って」と言っていて、私たちを誘いました。居間に入ると、「さて、何出そうか、コーヒーがいい？、お茶がいい？」と訊きます。

「コーヒーがいい」と言った私たちに答えて、義母はコーヒーメーカーのスイッチを入れてくれ、話を始めました。

「チーン、チリンチリン」

音がした方を見上げると、居間と広間の間にある鴨居に風鈴が下げられていました。細い金属性の棒が風に揺られて他の棒に当たるとチリンと音が出るのです。

「この音、父ちゃん、聞こえなかったよね」

と妻が尋ねる調子で言うと、この言葉をつなぐように義母が言いました。

「新聞も読まなくなったし、相撲も観なくなった……」

二人の会話を聞きながら、晩年の義父の様子を思い出しました。夕方になるとベッドから起き上がって部屋のカーテンを閉めていた義父。些細なことに見えるかも知れませんが、義父はこれを自分の「仕事」としてとても大事にしていました。そしてカーテンを閉め終わると、再びベッドに戻り、あぐらをかいてじっとしていました。

「チーン、チリンチリン」また風鈴が鳴りました。

「でも、私はこの音好きだ」

座イスにゆったりと腰かけていた義母はそう言いながら、「ヘッヘッヘ」と笑いました。何かを思い出したのでしよう、笑う顔はじつにうれしそうです。

「この前さ、小学校の時のK先生、Y子んとこへ来たよ。苗字が変わっていたので自分の教え子だということがわからなかったようだ」

K先生は、妻のキョウダイ全員が小学校時代にお世話になった人だということですね。義母と妻の話の様子から言っていて、おそらく九〇代の方だと思います。その先生が義姉の勤める老人福祉施設に入った時、義姉が自分の教え子だということを知らずに、妻のキョウダイ、一人ひとりについてほめてくださったらいいのです。これなら、義母が喜ぶわけです。

二人の会話ははずみ、妻の小学校時代のころまでさかのぼりました。まさかと私が耳を疑ったのは、絵日記の話でした。妻の書いた絵日記がその時代の教科書に載り、妻の従妹のクミちゃんとその教科書を使っていたというのです。絵日記には、近所の友達とケンケン飛びをしているところが描かれていて、「こういうふうにして絵日記を書きましょう」と書いてあったとか。いったいどんな絵だったのでしょうか。

夕方、薄暗くなっても風鈴は鳴り続けていました。帰り際に、義母がぼつりと言った言葉が心に残りました。「来年は畑、やめようと思ってる……」。

一時も早く柏崎刈羽原発再稼働に反対表明を！

日本共産党議員団の平良木議員は21日の一般質問で、東京電力柏崎刈羽原発の廃炉、再稼働問題を取り上げました。

平良木議員は、「原発の危険性にかんがみ、柏崎刈羽原発の廃炉を求めべきだ。再稼働には明確に反対を」と訴えました。

これに対して村山市長は、「原子力発電という『技術』が社会に恩恵や利便をもたらすと同時に、相反する重大な影響を及ぼす危険性も有する」「原子力発電所の稼働等に関する急激な方向転換は、社会経済や国民生活に及ぼす影響が少なくない」とのべ、即廃炉や再稼働反対をなかなか言いませんでした。

いまや原発ゼロは国民の世論では主流です。柏崎刈羽原発は上越市と近いところで18キロほどしかありません。東京電力福島第一原発事故の原因究明が極めて重要なことは

言うまでもありませんが、いまの原発の技術はいったん過酷事故を起こすとおさえることができない水準であることを認識しないとけません。「まずは国の責任において、客観的で信頼性の高い安全対策と事故防止策が確立されることが最も重要」と繰り返し、再稼働への態度表明を先送りする市長。平良木議員が「少しでも危険なものはストップだ」という姿勢に立ってもらいたい。「少なくともいまの時点では反対であることをしっかり言ってほしい」と重ねて訴えると、市長はようやく、「いまの状態では再稼働はあり得ないし、あってはならないと思っている」と答えました。



写真はヒメジソかイヌコウジュ。23日撮影。



質問する平良木議員。21日。

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果（数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常の範囲は1時間当たり0.016～0.16μSv（マイクロシーベルト）だということです。

	9月19日（水）	9月26日（水）
上越南消防署	0.033	0.030
上越北消防署	0.060	0.050
新井消防署	0.060	0.057
頸北消防署	0.050	0.040
頸南消防署	0.050	0.047
東頸消防署	0.047	0.043
高士分遣所	0.050	0.043
名立分遣所	0.050	0.040